

熊本商工会議所・第45回 経営動向調査

平成19年9月期 結果報告書

業況DI マイナス29.0 前期(19年6月期)から悪化

～建設業(土木)が改善、飲食業、卸売業、小売業は悪化～

調査結果のポイント

全業種の業況DI値は▲29.0となり、前回(平成19年6月期)調査の▲19.9と比較して、悪化(マイナス9.1ポイント)した。

前回調査から業況が改善したのは、建設業(土木)が▲23.1(プラス16.9ポイント)、製造業が▲33.3(プラス5.1ポイント)の2業種であった。一方、悪化を示したのは、飲食業が▲56.3(マイナス31.3ポイント)、卸売業が▲34.6(マイナス23.1ポイント)、小売業が▲39.3(マイナス16.1ポイント)、建設業(職別・設備)が▲17.2(マイナス7.2ポイント)の4業種であった。そしてサービス業が▲10.6(マイナス1.0)でほぼ横ばいとなった。

今回の調査においては、前回調査で悪化が見られた2業種が改善に転じ、一方、前回改善傾向にあった5業種が今回は悪化するなど、全体的には一進一退の足踏み状態が推測される結果となった。

また、来期(平成19年10～12月)の業況見通しとしては、飲食業を除く他の業種においては、好転もしくは横ばいの見通しとなった。

調査対象期間 平成19年7月～9月(平成19年度 第2四半期)

- ・ 調査期間 平成19年9月10日(月)～9月14日(金)
- ・ 調査対象数 熊本市内 小規模企業 288事業所
- ・ 回答数 215事業所(回答率74.7%)

※ 小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業をいう。

《業種別回答状況》

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	27	73.0
建設業(土木)	20	13	65.0
建設業(職別・設備)	34	29	85.3
卸売業	34	26	76.5
小売業	72	56	77.8
飲食業	21	16	76.2
サービス業	70	48	68.6
合計	288	215	74.7

※ DI値(業況判断指数)について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表すものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(19年6月期)調査と比較した概況

【全業種】

製造原価・仕入(材料等)単価がやや改善し、販売(受注)・客単価も僅かに改善となった。売上高がやや悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。

〈製造業〉

製造原価がやや悪化し、販売(受注)単価はほぼ横ばいとなった。売上高が改善したものの、採算(営業利益)は悪化となった。

〈建設業(土木)〉

仕入単価が大きく改善し、受注単価も大きく改善となった。売上高が大きく改善し、採算(営業利益)も大きく改善となった。

〈建設業(職別・設備)〉

仕入単価が大きく改善したものの、受注単価は悪化となった。売上高が大きく改善したものの、採算(営業利益)は僅かに悪化となった。

〈卸売業〉

仕入単価が大きく悪化したものの、売上単価は改善となった。売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も大きく悪化となった。

〈小売業〉

仕入単価が僅かに改善したものの、客単価はやや悪化となった。売上高がやや悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。

〈飲食業〉

仕入単価が改善し、客単価も改善となった。売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も大きく悪化となった。

〈サービス業〉

仕入単価(材料等)が改善し、客単価も改善となった。売上高がやや悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。

業種別の業況一覧

上段＝対前期比
下段＝対前年同期比

業種	今回調査 (19年9月期)	前回調査 (19年6月期)	今回調査との 比較ポイント
全業種	▲ 29.0	▲ 19.9	▲ 9.1
	▲ 34.0	▲ 24.0	▲ 10.0
製造業	▲ 33.3	▲ 38.5	5.1
	▲ 33.3	▲ 42.3	9.0
建設業 (土木)	▲ 23.1	▲ 40.0	16.9
	▲ 30.8	▲ 42.9	12.1
建設業 (職別・設備)	▲ 17.2	▲ 10.0	▲ 7.2
	▲ 24.1	▲ 6.7	▲ 17.4
卸売業	▲ 34.6	▲ 11.5	▲ 23.1
	▲ 42.3	▲ 11.5	▲ 30.8
小売業	▲ 39.3	▲ 23.2	▲ 16.1
	▲ 41.1	▲ 33.9	▲ 7.2
飲食業	▲ 56.3	▲ 25.0	▲ 31.3
	▲ 66.7	▲ 23.5	▲ 43.1
サービス業	▲ 10.6	▲ 9.6	▲ 1.0
	▲ 17.4	▲ 15.4	▲ 2.0

来期(19年10~12月期)の業況見通し

全業種における来期(19年10~12月期)の業況見通しのD I値は▲7.1となり、19年6月期の前回調査の業況D I値▲13.0と比較して5.9ポイント改善し、全体としてやや明るい業況見通しとなった。

業種別で、前回調査と比較して来期の見通しD I値が改善する業況見通しの業種は、サービス業、建設業(土木)、卸売業の3業種であった。一方、業況見通しが悪化の業種は、飲食業のみで、厳しい業況見通しとなった。また、製造業、小売業、建設業(職別・設備)の3業種については、ほぼ横ばいの見通しとなった。

業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業 種	今回調査 (19年9月)	前回調査 (19年6月)	今回調査との比較
全 業 種	▲ 7. 1	▲13. 0	5. 9
製 造 業	▲18. 2	▲20. 0	1. 8
建 設 業 (土 木)	▲ 9. 1	▲21. 4	12. 3
建 設 業 (職別・設備)	±0. 0	±0. 0	±0. 0
卸 売 業	▲ 4. 3	▲13. 0	8. 7
小 売 業	▲15. 6	▲15. 7	0. 1
飲 食 業	▲46. 2	▲31. 3	▲14. 9
サービス業	14. 3	▲ 4. 7	19. 0